

芸術科(音楽) 学習指導案

大阪府立〇〇高等学校

授業者 〇〇 〇〇

1. 日時 令和〇年〇月〇日(〇)第〇時限
2. 場所 音楽教室
3. 学年・組 第I学年〇組(40名)
4. 科目 音楽I
5. 題材 ゲーム音楽から学ぶ様々な音楽「日本の伝統音楽」

6. 題材の目標、学習指導要領との関わり

(1)【知識及び技能】

・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、日本の伝統音楽の特徴について理解する。

(2)【思考力、判断力、表現力等】

・音色、リズム、速度、旋律、強弱、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、自分や社会にとっての音楽の意味や価値及び音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを深く味わう。

(3)【学びに向かう力、人間性等】

・日本の伝統音楽の特徴をふまえてその魅力を味わうことに関心を持ち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽を愛好する心情を養う。

本題材は、高等学校学習指導要領の下記に基づいて構成している。

第2章 第7節 芸術 第2款 各科目 第I 音楽I 2 内容B 鑑賞

鑑賞に関する資質・能力を次のとおり育成する。

(1)鑑賞 鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)から(ウ)までについて考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くこと。

(ア) 曲や演奏に対する評価とその根拠

(イ) 自分や社会にとっての音楽の意味や価値

(ウ) 音楽表現の共通性や固有性

イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。

(ア) 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり

(イ) 音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わり

(ウ) 我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴

7. 教材観

ゲーム音楽はゲームの世界観を彩り、プレイヤーの感情を揺さぶる体験において欠かすことができない。また、ゲーム音楽はゲームへの没入感を高めるための一つの大きな要素となっており、多種多様な音楽ジャンルが盛り込まれている。それらに自然と触れることができるのがゲーム音楽のよさであることから、導入としてゲーム音楽を活用することで日本の伝統音楽をより身近な存在として認知できる。今回は、日本の伝統音楽のよさや美しさを

見だし、思いや意図を持って表現したり味わって聴いたりする力を身に付け、自身の生活に関わる契機となるよう設定した。

8. 生徒観

(略)

9. 指導観

事前調査によると、普段生徒が意識的に触れている音楽ジャンルの大半は流行りの J-POP であり、生徒のほとんどがそれ以外の音楽ジャンルに興味・関心が薄いと考えられる。生徒は、言語活動には慣れており、自らの考えをアウトプットすることや、他者と対話しながら協働的に学ぶことによる効果は大きいと考え、アンケートやグループワークを活用し、自ら考え、他者との交流によって様々な意見を引き出すことで、生徒がそれぞれの音楽の特徴を捉え、興味をもってそのよさや美しさを感じできるように工夫した。

10. 題材の評価規準

| 知識・技能【a】 | 思考・判断・表現【b】 | 主体的に学習に取り組む態度【c】 |
|--|--|---|
| 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、日本の伝統音楽の種類と特徴について理解をしている。 | 音色、リズム、速度、旋律、強弱、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えているとともに、自分や社会にとっての音楽の意味や価値及び音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを深く味わっている。 | 日本の伝統音楽の特徴をふまえてその魅力を味わうことに関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 |

○：総括的評価(記録に残す評価)

●：形成的評価(指導に生かす評価)

11. 題材の指導と評価の計画(全1時間)

| 時 | 学習内容 | 生徒の学習活動 | 評価の観点 | | | 評価規準【観点】 (評価方法等) |
|-------------|---------|---|-------|---|---|---------------------------|
| | | | a | b | c | |
| 第1時 (本時) | 日本の伝統音楽 | 日本や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴についてゲームに使用される楽曲を用いて考えるとともに、それぞれが固有の特徴をもち、その特徴が、演奏される場の状況、我が国の自然や風土、そこで育まれた美意識などに根ざしていることを理解する。 | ○ | ○ | ○ | 【c】(観察) 【a】【b】(レポート課題) |

12. 本時の展開

(1) 本時の目標

題材の目標に準ずるため省略

(2) 本時の評価規準

題材の評価規準に準ずるため省略

(3) 総括的評価の判断基準

| 判断基準 評価規準 | 「十分満足できる」 状況(A) | 「おおむね満足できる」 状況(B) |
|---------------------|--|--|
| 知識・技能 (技能の設定はなし) | 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解を深めている。 | 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解している。 |
| 思考・判断・表現 | 音色、リズム、速度、旋律、強弱、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、自分や社会にとっての音楽の意味や価値、及び音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを深く味わい、自分の経験や知識と関連させながら表現している。 | 音色、リズム、速度、旋律、強弱、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、自分や社会にとっての音楽の意味や価値、及び音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを深く味わっている。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 日本の伝統的音楽の特徴をふまえてその魅力を味わうことに関心をもち、自分の経験や知識と関連させながら、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 | 日本の伝統的音楽の特徴をふまえてその魅力を味わうことに関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 |



| 「努力を要する」 状況(C)と判断される生徒に対する指導 のてだて |
|---|
| わかりやすい箇所を提示し、対話を繰り返す。 |
| 対話を繰り返し、知覚したことと感受したこととの関わりについて、生徒の考えを引き出す。他者を参考にするように指導を行う。 |
| 対話を繰り返し、日本の伝統的音楽の特徴を振り返らせるようにし、生徒の考えを引き出す。他者を参考にするように指導を行う。 |

(4) 本時の準備物

Chromebook、PC

パワーポイントによる音源、画像、資料提示

プリント、ワークシート

(5) 本時の学習過程

| 時間 | 学習内容 | 生徒の学習活動 | 教員の働きかけや 生徒に投げかける問い | 予想される生徒の姿 | 評価規準【観点】 (評価方法等) |
|-----------|---|---|---|--|---------------------|
| 導入 7分 | <p>本時の授業内容の確認</p> <p>ゲームに使用される日本の伝統音楽の印象について考える</p> | <p>ゲームに使用される楽曲をはじめとする複数の楽曲を聴取し、どのような特徴があるかを考える。</p> <p>聴取した楽曲の印象をペアで話し合う。</p> | <p>本時のねらいを提示する。</p> <p>聴取した楽曲それぞれにどのような特徴があるかを考えながら聴くように促す。</p> | | |
| 展開 40分 | <p>日本の伝統音楽の要素を考える</p> <p>アンケート結果の確認</p> | <p>聴取した各楽曲に対してどの程度「和を感じたか」について、「とてもそう思う・まあまあそう思う・あまりそう思わない・全くそう思わない」の4段階でGoogleフォームのアンケートに回答し、同時にプリントにもメモをとる。</p> <p>アンケート結果を全体で確認し、「和」を感じる度合いについてのクラス全体の傾向を知る。</p> | <p>「和」の定義を含め、個々による感覚的な要素が強いため、人によって答えが異なっていても全く問題がないことを強調する。</p> <p>自分が答えた内容を忘れないようにメモをとることを促す。</p> <p>「自分と他者とのギャップやクラスの傾向の分析により、少数の生徒しか『和』を感じたと回答しなかった楽曲の結果からも読み取れることがある」ことを伝える。</p> | <p>他人と感覚が異なりはしないか不安を持ちながら回答する姿が見られる。</p> <p>多数の生徒が「和」を感じたと回答した楽曲の特徴に注目が集まりがちになる。</p> | |

| | | | | | |
|--------------------|---|--|---|--|----------------------------|
| | <p>グループワーク</p> <p>意見共有</p> | <p>アンケート結果をもとに、改めてグループごとに日本の伝統音楽の要素とは何かを考える。</p> <p>各グループの意見を共有する。</p> | <p>発言者が固定されないよう、進行役、投稿役を決め、スムーズに意見交流を図れるようにする。</p> <p>メンバーの多様な意見を取り入れて、グループの解答をまとめるよう促す。</p> <p>少数派の意見も取り上げつつ、グループで出た意見をつなげる。</p> | <p>特徴的な音階や和楽器の音から「和」を感じた、といった多数派の意見だけでなく、「何となくそう感じた」といった直感的な意見についてもその理由をつきつめながら、日本の伝統音楽の要素について考えを深めていく様子が見られる。</p> <p>それぞれのグループで出た考えをさらに超えて、日常生活での経験との関連に話題が広がるなど、クラス全体で考えをより深めていく様子が見られる。</p> | <p>【c】(観察)</p> |
| <p>まとめ 18分</p> | <p>日本の伝統音楽の要素、特徴についての確認</p> <p>レポート課題について</p> | <p>改めて様々な音楽を聴きながら、日本の伝統音楽の要素、特徴について確認する。</p> <p>日本の伝統音楽の要素、特徴について学習したことを、自身がこれまで音楽に触れてきた経験と関連させてレポートにまとめる。</p> | <p>生徒たちの気づきをもとに、プリントやパワーポイントの資料を活用し、日本の伝統音楽を形づくっている要素について解説する。</p> <p>レポートの書き方を確認し、Google ドキュメントの形式で提出するように促す。</p> | | <p>【a】【b】 (レポート課題)</p> |